

View of Kanazawa 景全勝八 (勝名澤金)

「みたまのふゆ」とは、私共が常に愛りたたいてゐる大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいたたいて、生かされてゐるのです。

絵はがきにみる金沢八景

江戸時代から風光明媚な景勝地として行楽客が訪れるやうになり、「金沢八景」の名称も生まれ、土産物として浮世絵が刷られるやうになりました。中でも広重の「金沢八景」が有名です。

明治の文明開化から写真の技術が普及すると、浮世絵は絵はがきに変はってゆきました。カラー写真はありませんでしたので、モノクロの写真に水彩絵の具で色づけされた絵はがきが出回りました。「金沢八景」の八枚のほかに、「八勝全景」と「九覧亭」を加へた十枚組のセットも好まれたやうです。上の写真も「金澤名勝」と題した十枚組のうち「八勝全景」です。

「金沢八景」は当時拡張されつつあった横須賀軍港にちかく、地形の判る絵はがきの出版には軍部の許可が必要でした。上の写真には「東京湾要塞司令部地14第十七號・横須賀鎮守府第三號ノ三大正十四年二月二十五日檢閲濟」の注記が下方に印刷されてゐます。(注記部分は省きました)

瀬戸橋が間に島を挟んだ二本の橋になつてゐるのが判ります。また千代本楼の一部が三階になつてゐます。見晴らしの良いことで当時人気があつたとのことです。

大正十二年の大震災の直後ですが、民家も含めて建物の多くは倒壊を免れてゐる様子です。

平成三十年祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳旦祭
鶏鳴神事
- ◎ 三月 二日 春季大祭
祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 四月 二九日 昭和祭
- ◎ 五月 一五日 例大祭
神社本廳献幣使参向
琵琶島弁天社・神輿渡御
- ◎ 六月 三〇日 大祓式
大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 八日 天王祭出御祭
本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 一〇日 三つ目神楽
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 一五日 天王祭巡幸祭
天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 二二日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一四日 手子神社秋祭
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 十一月 二三日 秋季大祭
新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市
開運熊手授与
- ◎ 二月 二三日 天長祭
- ◎ 二月 三二日 大祓式
大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭

金沢八景の絵はがきと鉄道パンフレットに見る

大正、昭和初期の風景

一面に掲載した大正十四年検閲の彩色絵はがきの「稱名晩鐘」が写真①です。

よく見ると、鐘楼（吊り鐘堂）がなく、台座の上に、鐘が直接乗せられてゐます。

大正十二年の震災の直後ですので、鐘楼が倒壊したあとの撮影のやうです。

写真②の称名寺は、鐘楼も本

堂も茅葺きで、これが一番古い写真のやうです。写真③は鐘楼は茅葺きですが、本堂は瓦になつてゐて、これが震災の直前ころと思はれます。

震災後の鐘楼は瓦葺きで再建され、写真④のやうになります。これには昭和五年の検閲の注記があります。

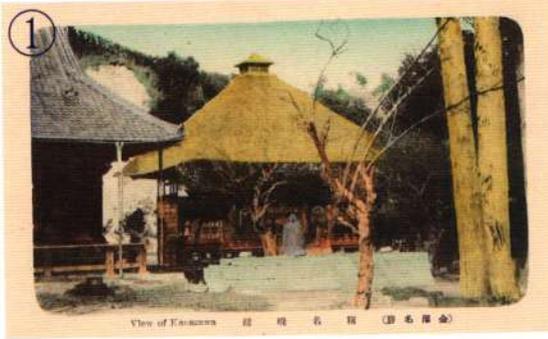
検閲の注記に日付がないもの

もありますが、こんな建物の変化からおよその時代が推定できます。

○

写真⑤は古い瀬戸橋の写真です。橋の中央に中島が置かれてゐる様子がよくわかります。二階建ての建物は「東屋」でせう。

昭和五年の検閲日付のある瀬戸橋は写真⑥です。コンクリートの眼鏡橋形状に架け替へられてゐます。絵はがきには自動車の写つたものが見当たらないのですが、昭和五年ころには自動車も渡れる橋が必要になつたの



View of Enomura 鐘楼名稱 (彩色絵)



Rebuilding Deal of Shomura 鐘楼の今名稱 (黒白洋画)



View of Kanazawa Bashi 鐘楼寺名稱 (内之安八津金州武) (彩色二葉特)



Seto Bashi, Kanazawa, Daisen 橋戸瀬津金州武



鐘楼名稱 (彩色絵)

でせう。

○

自動車の写真が見当たらないと言ひましたが、写真⑦にはなんと飛行機が飛んでゐます。

昭和五年の検閲日付の「乙艦帰帆」です。追浜に航空隊の飛行場ができ、乙艦上空は複葉機が見られるのも観光価値があつたやうです。

写真⑨の海水浴パンフレットには金沢八景「海の家」の紹介文に遠浅で波静か、海水清澄などの特色に続き「野島続きの追浜海軍飛行場は眼前に広がり、



頭上碧空に乱舞する飛行機の爆音は勇ましく・・・との記述も見られます。

写真⑧は、手前に魚すくいをしてゐる子供たちがゐて、遠景には電車が走つてゐます。これには検閲日付がないのですが、昭和五年の湘南電気鉄道の開業直後のころと思はれます。

湘南電気鉄道は、当初、黄金町〜浦賀間および金沢八景〜湘南逗子間の運行でしたが、昭和八年には横浜駅で京浜電気鉄道と接続し、品川からの直通運転も開始しました。(両電鉄はのち



に合併し、これが現在の京浜急行電鉄になります。)

写真⑩はその当時のパンフレットです。

夏には海水浴、春秋には金沢八景めぐりのハイキングが推奨されてをります。

金沢八景遊覧のコースとしては「金沢文庫駅〜金沢文庫〜称名寺〜金沢園〜野島〜琵琶島弁天〜瀬戸明神〜九覧亭〜権現山遊園地〜金沢八景駅」との案内があります。

権現山遊園地と記載がありますが、ここは現在、横浜市の計



画として(仮称)金沢八景西公園として、公園造成の作業が進められてをります。(この(仮称)が削除されて正式名称が近々にも決定されると思ひますが、その際には、昭和の初期には「権現山遊園」と呼ばれてゐたことも参照していただきたいと思ひます。



瀬戸神社略縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀ったのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前(古墳時代)のことです。

治承四年(一一八〇)鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの霊域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあつて、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間にも信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教学人となり神奈川県神社廳獻幣使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年に屋根を銅葺きに改め、平成二十四年には御屋根替へと修増築の御修営事業が行われました。

御祭神

大山祇(おほやまつみ)の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

天孫瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。

須佐之男(すさのを)の命

配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話は有名です。自然界、人間界の罪けがれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれてみます。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。

菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらっしやいます。

境内の危険樹木の整備作業

瀬戸神社の背後の鎮守の社は、横浜市の天然記念物にも指定され、また境内には古木・名木指定の樹木も多数あります。

しかし、老木・古木のなかには、枯損するものが多く出てきます。

昨冬から今春にかけて、後背地社叢林のホルトノキほか大きな物を五本、また宝物庫前のイチヨウ一本を危険木として伐採しました。

銀杏は、二〇年ほど前に、隣にあつたもう一本が大風で倒れましたが、残りの一本も次第に



傾斜が目立ち、根本にはサルノコシカケが発生するなど、老衰状態が目立つてきました。

ホルトノキも完全に枯死状態で、倒れば宝物庫に被害を及ぼし、またいづれも参拝者や通行人への被害を未然に予防するためにも、大がかりな作業でしたが、処理をいたしました。

瀬戸神社

〒三三六-〇〇二七
横浜市金沢区瀬戸十八-十四

(電話) 〇四五-一七〇 一九九九二

(FAX) 〇四五-一七〇 一九九九四

<http://www.setojinja.or.jp>